

令和元年度 学校関係者評価実施結果報告

1. 学校関係者評価委員

- 1) 地元企業関係者：公益社団法人高知県看護協会会長
- 2) 高等学校関係者：高知県立高知西高等学校長
- 3) 卒業生：同窓会あかつき会会長
- 4) 教育に関する有識者：高知県立高知若草特別支援学校長
- 5) 看護管理者：医療法人須藤会土佐病院看護部長

2. 評価方法：書類審査（今年度限り） ※令和2年3月23日に会議開催予定だったが、県内の感染症発生状況により中止した

3. 評価日：令和2年5月15日～5月26日

4. 評価内容：令和元年度 学校運営方針の取り組み実施状況

5. 評価資料

- 1) 令和元年度 学校運営方針 自己評価書
- 2) 添付資料 資料1：令和元年度学校相互評価自己評価書（学校相互評価受審時提出）
資料2：令和元年度学校相互評価受審結果（R1.11.29受審）
資料3：卒業生進路状況
- 3) 参考資料 学生便覧、学校案内、募集要項

6. 評価基準：4段階評価及び総評（自由記載）

- 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
 3：達成できている（成果がみられる）
 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられない）
 1：全く達成できていない（全く成果がみられない）

7. 評価結果

評価項目（運営方針）		自己評価	他者評価
1 質の高い教育実践のために、教員の教育実践能力の向上と効果的カリキュラム運用を図る。		2.9	3
1) 学生の研究授業の実施（3回/年）と他校の研究授業参観による授業力の向上		3	3
2) 各自研究テーマに基づく研究成果の発表（3題/年）		3	3
3) 実習指導力向上のための実習指導方法の検討会の実施（1回/月）		2	2.5
4) 臨床指導者と効果的な指導方法の共有		3	3
5) 臨地実習評価ルーブリックの見直しと改善		3	3
6) カリキュラム改正に向けた自校のカリキュラム評価の実施		2	2.5
7) 学校相互評価受審に向けた自己点検・自己評価		4	4
総評	<p>多忙な業務の中で、研究授業や研究成果の発表等着実に実施しており、授業力や教員としての資質向上への取り組みに大いに成果がみられる。高校卒業後の学生に対し、専門分野の高度な内容について「わかる」「できる」実感を持たせ、「学ぶことが楽しい」「学びたい」という意欲を醸成するための教員の努力に敬意を表す。また、研究授業の一部を県外の看護学校の教員に公開するなど、自校だけでなく県内全体の教育レベルの向上に貢献している。研究授業後に意見交換することで授業者、参観者共に学びの場になっている。教員の授業改善は、明確な目標設定とそれに向かう手立てが学生の実態に応じたものであることが大切である。それぞれが教示する内容は異なっても同僚の教員や他校教員との授業研究で外部の視点も入れながら、PDCAサイクルを確実に重ねていく取り組みがシステ化されるとよいのではないかと。また、他県の看護学校での研究授業への参加については、自己評価にも記載されているが、どのような学びになったのか報告と共有が必要である。</p> <p>実習指導に関しては、学生のリフレクションの傾向と教員の指導視点やアプローチ傾向を把握し、学生への関わり方の見直しと修正、悩むケースへの対応や迷っていることを互いに相談や確認ができている。ルーブリックの見直しと改善に関しては、ほぼ計画通りに実施でき、課題も明確になっている。</p> <p>また、カリキュラム評価の実施は一定の取り組みを進めている。カリキュラム改正については、ロードマップが作成されていると思うので、定期的に検討会を開催し進捗確認をしながら進めていく必要がある。学生にとって重要である実習指導や教育課程、カリキュラム等の検討・評価が部分的に不十分であったところは残念であるが、それ以外の部分については一定の評価ができる。</p>		

評価項目（運営方針）		自己評価	他者評価
2 職員の学校経営に対する意識を高め、円滑で安定した学校運営を図る。		2.4	2.5
1) 業務の効率化と適正な時間管理による超過勤務の削減		2	2.5
2) 学校運営マニュアルの再検討		2	2
3) 新刊図書の充実と有効利用の推進		3	3
4) 教材物品の効果的活用の推進、使用後の片付け整理と保管管理の徹底		2	2
5) 防災訓練・防災教育の体系化と実施		3	3
総評	<p>令和元年度に教員1名減数となった厳しい人員配置の中で、超過勤務時間は前年度より縮減できている。教員数が充足しない中で学生と向き合う時間を確保することの難しさがあったと推察する。また、学校全体として従来の取り組みに対して手が回りかねている感がある。そういう状況だからこそ、運営マニュアルや教材物品管理の徹底、教育の体系化等が非常に重要で、思い切った業務精選が必要になってきているのではないかと考える。限られた人材、時間の中で、円滑な学校運営を行うために工夫されている面もあるが、今後も引き続き業務内容を見直し、業務の効率化を図り、教員が時間内に教材準備ができるような工夫、働き方改革で推進されている有給休暇の取得促進にも取り組んでいく必要がある。また、教材の活用に関しては、課題にあげているように準備から後片付けまで物品を大事に扱うこと等、看護の基本にもつながることであるため、引き続き指導していく必要がある。</p>		

評価項目（運営方針）		自己評価	他者評価
3 国立病院機構及び地域社会に貢献できる人材の育成と人材の活用を行う		2.6	2.7
1) 効果的な学校PR、募集活動による学生獲得		2	2
2) ホームページの即時更新、情報発信の充実		2	2
3) 母院への就職率：25%、機構への就職率：60%、県内就職率：60%以上		2	2
4) 国家試験対策体系化、合格水準の向上を図る（国家試験合格率100%）		3	3.5
5) 教員各自の専門性を活かした国立病院機構及び地域社会への貢献		4	4
総評	<p>社会的に非常にニーズがある中、毎年優秀な看護の人材を輩出していることは、教員と高知病院あがての人材育成の熱心な取り組みの成果だと考える。新型COVID-19感染症への対応が求められる中、看護の仕事に就く選択をすること自体が厳しい情勢にあるかもしれず、仕事の意義、魅力、可能性の広がり等を積極的に発信するのも看護学校の役割であることを改めて理解した。</p> <p>少子化が進む中、看護を目指す学生をいかに獲得するか看護界全体の課題であり、貴学の求める水準の学生を十分に獲得することは決して容易ではなく、高校生、保護者の大学志向に伴う受験生の減少や合格しても大学への進学を選択する者が多いと考えられる。しかし、高校には毎年一定数の看護師志望者がおり、県内での学生獲得の余地はまだある。よって、学生募集は非常に重要な活動であり、内容を精選し、より効果的なものに注力する必要がある。PRもHPはもとよりリーフレットなどで、専門学校での少人数制の看護基礎教育の魅力や学校の強みを前面に押し出し、高校生目線でわかりやすく、魅力を感じるようなものにし、学生獲得に努めていくことが重要である。卒業後、大学や助産師への進学率の高さもアピールできるのではないかと。職員数が少ない中でのタイムリーな情報発信やPR活動は、自校の取り組みだけでは難しいこともあると思われるため、広報分野の外部人材の活用なども効果的ではないかと。</p> <p>就職率に関しては、県内の募集状況も影響していると思われるが、引き続き母体病院、機構、県内への就職の働きかけを継続していただきたい。また一旦県外に出ても数年後に戻って地元の医療に貢献して欲しいとエールを送る。</p> <p>国家試験の合格率はほぼ維持しており、教員の取り組みの成果と評価できる。既卒者へのフォローもしっかりできている。</p>		

評価項目（運営方針）		自己評価	他者評価
4 学生の主体性を尊重し、自律した学生を育てる。		3	3
1) 学生間交流の推進と学生QC活動への支援		3	3
2) 看護学生としての自覚を持った情報管理・健康管理行動指導		3	3
3) 日常的に全教職員で教育的ヒューマンケアリングの実践		3	3
総評	<p>学生ひとり一人の状況、特性を把握し、きめ細かい指導を行うとともに、教員同士の情報共有により一貫した教育的ヒューマンケアリングが行われている。主体的に社会に貢献する人材として学生を育成するために、学年縦割りやQC活動等工夫をされ、貴校の意識的取り組みは高く評価できると考える。学生の主体性を尊重することと教員の関わり方は難しいと思うが、活動を通して学生が達成感を得られる体験が今後の看護活動にもつながると考えられる。高校段階においても、以前と比べて自ら考え判断し行動できる生徒は段々少なくなってきているように思われ、3年間かけて育成していく必要性が出てきている。ましてや貴校のようなミスの許されない医療専門職人材の育成を目指す教育機関とすれば、必要不可欠な資質であり、学生主体と教員主導のバランスをうまくとって、計画的かつ忍耐強く学生の自主・自律に結びつけてもらいたい。学生自身の情報管理や健康管理に関しては、ヒヤリハットを積極的に共有し、より自分のこととして考えさせることに加えて、チェックリストなどを用いて常に視覚的に確認できるようにすることも有効ではないかと。</p>		